

平成 29 年度 京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

- 1 日 時 平成 30 年 3 月 7 日(火) 午後 3 時～4 時 50 分
- 2 会 場 同志社 新島会館 別館 2 階 貴賓室
- 3 出席者 評議委員：荒木かおり，上原恵美，片山真理子，鈴木久男，野口実，藤野正弘
京 都 市：文化市民局文化芸術都市推進室 土橋担当部長，文化財保護課中川課長，
歴史資料館 井上館長，宮崎次長，村上担当係長 他

4 欠席者 田端委員

5 傍聴者 なし

6 議事運営

(1) 開会

京都市市民参加推進条例第 7 条により本会議及び議事録等について公開することを説明。

(2) 開会あいさつ

(3) 出席委員，出席者紹介。

(4) 平成 29 年度事業報告説明（資料 2 参照）

平成 29 年度は，特別展「岩倉具視の生きた時代（大政奉還 150 周年記念プロジェクト）」，テーマ展「京・地域のくらし 2 大原—生活と信仰—」，同「燈心文庫にみる室町時代の諸相」，同「江戸時代の京都ニュース—続・大塚コレクション展—」，企画展「鷹山ふたたび—祇園祭鷹山復興支援展—」，スポット展示として「福王寺神社の志士と狛犬」「明治 33 年 釈迦真骨の奉迎行列」「朝鮮通信使行列図」「黎明期のカメラマン堀内信重」「五榜の掲示 京都に残された高札」「桂女のすがた」を開催したことについて報告。各展示にちなんだ歴史講座をはじめ、フィールドワーク「大原の古道を歩く」、古文書講座（春 4 回・秋 4 回）、夏休み親子歴史講座を開催し、国庫補助事業としてシンポジウム「今村家文書の魅力」・歴史ウォーク「むかしの柳原庄を歩く」、その他アスニー京都学講座等を実施したことを報告。また、3 月の『叢書京都の史料 15 久多荘文書』の刊行、『京都市歴史資料館紀要』第 28 号の 6 月刊行予定について報告。この他、資料の調査・収集・整理・保管・研究、普及事業、歴史的公文書の調査・指定、博物館実習生の受け入れ、フィールドミュージアム京都の運営等のほか、中学生チャレンジ体験の受け入れなどについて報告。

歴史資料館の利用及びホームページアクセスの状況については、来館者数が、今年 2 月末までの合計で約 18,000 人程と、昨年同時期に比べ 11.2%，資料閲覧は昨年比 16.8%，歴史相談も 13.8% 減少していること、ホームページアクセス数は、さらに減少しており、今後もっと多くの方にアクセスしていただける取組みが必要と考えていることについて報告。

(5) 質疑

[評議委員] ホームページアクセス数等は減っているが、講座の参加者の数の増減は。

[市・資料館] 古文書講座は定員 48 名で募集しているが、多い組には 60 名程の応募があり、お断りしている状況がある。本日開催の歴史講座も、定員 50 名に対し 95 名の応募があり、2 回実施し全員参加していただけるようにした。

[評議委員] それなら、必ずしも、歴史ばなれということではないのですね。わざわざ足を運んで参

加される方がたくさんおられるというのは、ちょっと胸をなでおろしました。ホームページはなぜそんなにアクセスが少なくなっているんですか。

[市・資料館] 歴史資料館のホームページは、京都市のホームページ「京都市情報館」の中にあり、事業の概要を紹介するくらいしかできていない。他の博物館・資料館にあるような、ビジュアルな見栄えのするホームページにはなっていない。予算的に厳しい状況でできていない。

[評議委員] 京都市のホームページから入らないとアクセスできないんですか？

[市・資料館] 京都市のホームページの中であって、わかりにくいということです。

[評議委員] (タブレットを開き) 歴史資料館のホームページ、たしかに地味ですね。

[評議委員] 来館者数等について報告がありましたが、歴史資料館は何を目指しておられるのか。動物園なら、来園者数が増えればよいということだと思いますが、歴史資料館の場合には、ただ大勢の人が訪れたらいいのではなくて、わかった人に来ていただきたいということなのか、そのあたりのところを教えていただきたい。

[市・資料館] これまで全く関心がなかった方についても、まずは歴史資料館という施設があるということを知っていただき、展示や講座などに来ていただき、京都の歴史・文化や歴史資料の大切さについて、もっと知りたいと思っていただけるような施設にしていかなければならない。研究での利用者など専門的な内容と併せて、両方が大事だと思って取り組んでいる。

[評議委員] 市民の目線でいえば、こんな施設があると思って、ふらっと入ってみても、映像展示室の映像はすごく古びていて、現代の若者は、鮮明な画像に見慣れているから、たぶん二度と来ようという気にはならないと思う。中国や韓国からの観光客が多いなか、「京都の歴史」は、外国と日本との関係を良くするうえでもすごくアピールするものがあると思う。来館者を増やす取組みでいえば、外国語の表示をもっと増やすということも進める必要があるのでは。あまり観光観光というのはいかがかと思うが、観光部局等と連携して予算がとれるような状況を作ることを考えてもいいのではないか。もっと、歴史資料館自体を知ってもらうようにしないといけない。

[評議委員] ホームページのはなしをしたい。京都市傘下の博物館でも、京都市考古資料館や学校歴史博物館は独自のホームページを作っていて、何度も訪れたいようなサイトになっている。これに対して、歴史資料館のホームページは非常に無味乾燥で、必要最小限の情報は載っているが、画像などはほとんどない。ホームページは非常に重要なツールになっているので、歴史資料館の負担ではなく、ホームページを作る京都市としての取組ができれば、もっと利用者に歴史資料館の魅力が伝わるものになっていくのではないか。

ホームページのアクセス数が減ってしまったのは、他の博物館との見比べも影響しているのではないか。同じ京都市傘下の施設でも、学校歴史博物館や考古資料館ではできているのに、歴史資料館だけが京都市のホームページの中でしか作れないというのは、何か理由があるのか？

[市・資料館] 学校歴史博物館では、博物館向けの国庫補助の予算をとって、外国語のコンテンツを充実したりしている。

[市・資料館] 考古資料館の場合は指定管理者制度で財団が運営していて、そこがホームページを作っ

ている。歴史資料館は市の直営なので、外部サイトが作れないし、自由にはできないところがある。予算要求はしているが認められていない状況。

[評議委員] 学校歴史博物館も直営ではないのか。

[評議委員] 学校歴史博物館も市、教育委員会直営。学校歴史博物館の場合、守備範囲は学校の歴史で、歴史資料館の場合は、平安以前からの京都の歴史で、規模的にも内容的にもすごいと思うが、学校歴史博物館のほうが情報発信力は優れている。ホームページも同様で、プライオリティを一番に持ってきたら出来ることであり、何を目指しているかによって違ってくる。

[市・資料館] 歴史資料館が今後どうあるべきかについては、いま検討を重ねている。歴史資料館では長年進めていた市史編さん・市政史編さん事業が終わり、そこからどう脱皮をしていくのか、また、展示などをどうするのかなど、今後の設計をしている段階だ。

[市・資料館] 京都御所や迎賓館への観光客にも足を運んでもらうことや、外国人向けの表記を増やしていくなどを含め、今後どのように進めていくか、課題とし検討したい。

(6) 平成 30 年度事業計画説明 (資料 3 参照)

展示については、特別展「叢書京都の史料刊行記念 久多荘—中世村落のすがた—」, 同「明治の面影—京の写真師たち— (仮)」, 同「京都をよみがえらせた名望家たち (仮)」, 企画展「文化財展 (仮)」, 同「和本のひろがり (仮)」を予定しており、「スポット展示」として、新収資料や新指定品、時宜に適したもの、市民の関心の高いものなどを選んで紹介する予定を報告。歴史講座は、叢書京都の史料刊行記念シンポジウム「久多荘—中世村落のすがた— (仮)」を左京区役所と連携して実施するほか、展示と連動した歴史講座として、同「明治の面影—京の写真師たち— (仮)」, 同「京都をよみがえらせた名望家たち (仮)」, 企画展「文化財展 (仮)」, 同「和本のひろがり (仮)」, また、「明治 150 年」事業の取り組みとして、「激動の明治と京都の元勳」全 3 回、「明治京都の開拓者たち」全 4 回の講座の開催のほか、古文書講座を春・秋に各 4 回、夏休み親子歴史講座、アスニー協力講座などを予定していることを報告。また、基本となる資料調査・収集・整理・研究、インターネットによる資料や情報の公開、歴史的公文書の調査・指定などの経常業務を進めるほか、収蔵スペースの狭隘化への対応として、一部の資料について学校空き教室を活用した一時的保管などを含め、施設のあり方についての検討を進めることなどを報告。

(7) 歴史資料館運営予算について (資料 4 参照)

平成 30 年度予算について、歴史資料館の管理運営については、館自体の維持管理費や例年の展示などの実施事業に係る費用のとしての一般経費と特別経費 700 万円 (明治 150 年記念事業「いま明治を考えるプロジェクト」) があり、700 万円の 2 分の 1 について国庫補助が得られる見込みであること等を報告。

(8) 質疑応答

[評議委員] 計画では、近世・近代に比重が大きくて、古代・中世の比重が少ないのではないかと。関東等の自治体であればわかるが、京都では平安の貴族の日記など、そういうところは今回は見送るという方針か。それから、京都市以外の政令指定都市の歴史博物館などはどのくらいの予算規模なのか、把握されているのか。京都市歴史資料館が「京都市歴史博物館」

のような大きな歴史博物館になる計画が1990年代にだめになり、そのままになっているという状況を考えた場合、京都市で「京都の歴史」を市民、観光客の方に還元していく空間としては京都市歴史資料館しかない、と私は考えている。他都市のデータがあれば教えてほしい。

[市・資料館] 京都市には歴史資料館以外にも考古資料館などがあり、他都市の施設とは性格が異なるということもあり、比較のデータについては詳しくは把握していない。

[評議委員] 他の自治体の場合には、色々努力して博物館を作ったりしている。京都の場合には、歴史でめしを食べているのに、核になる博物館が何もないという現状がある。予算の問題になると思うが、もっと頑張ってもらってほしい。それから、地域の小さなテーマでやっているのは、そういう方針なのか。

[市・資料館] 差し迫った課題として、京都市内の町や個人宅が古文書等の歴史資料を維持できなくなってきており、その歴史資料の救済 - 資料を調査して、整理・保存する、歴史資料館に受け入れた資料を活用していくということが、重要な業務になっている。展示や講座もそういった地域の歴史資料をいかに伝えていくか、そういう課題の中で考えている。

[評議委員] それはよくわかる。ただ、「お客さんが入らない」という問題と矛盾するわけで、来館者を増やしたいのであれば、展示をもっと工夫する努力がいる。大学との連携もぜひ進めていただきたらと思う。

[評議委員] 歳入・歳出には、人件費は入っているのか。

[市・資料館] 人件費は除いている。

[藤野委員] 人件費を除いて約1,500万円規模ということかと思うが、これは少ない。他の主要都市あるいは他のモデルとなるようなところと比較したら、きっと少ないと思う。京都の人は、よその都市に負けるのをすごく嫌うので、こういう材料も使って、予算を獲得して欲しい。

[評議委員] 京都市の他の博物館はどの程度の運営予算か。

[市・資料館] 考古資料館は運営予算約2,600万円で、財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託している。

[評議委員] 考古資料館もそんなに大きな予算ではないですね。そういわれてみると、京都の歴史を通史的にみられる博物館というのは、ないですよ。

[評議委員] ない。京都は歴史を売りにしているんだから、文化庁が京都に来るのを機に予算をつけてもらえないか。

[市・資料館] 他都市との比較の話も出ていますが、確かに、京都市の展示施設や収蔵施設は圧倒的に少なく、博物館構想もお蔵入りしている。たくさんのお意見をいただき、応援していただいているが、私たちが今やらなければならないのは、歴史資料館や考古資料館を利用したい人を増やして、もっと市民的な理解の裾野を広げ、京都市の文化施設がこれでは足りないではないかという機運を盛り上げていかないといけないと考えている。

[評議委員] ほぼ40年ほど二条城の事業に携わっているが、二条城はこの1～2年で劇的に変化した。冷暖房もなく、トイレも汚いというのが、ずっと変わらないように思えたが、観光としての位置づけと、外部からの声があって、大きく変わった。何か突破口が必要かなと思う。

それから、こども向けの取り組みというのも大事で、二条城で修理のアトリエに「京都こども大使」たちが見学に来られて、すごく興味をもって聞いてくれた。歴史資料館でも、こども向けにも興味をもたれるような取り組みをしていってほしい。

[評議委員] まず地元の御所東小学校などの受け入れなどを検討されてはどうか。

[市・資料館] ありがとうございます。こども向けには、例年の小学生対象の夏休み親子歴史教室に加えて、今年度は中学生のチャレンジ体験も受け入れている。他にもできることからやっていきたい。

[評議委員] 歴史資料館の施設については、望むべくもないと思うが、アスニーや考古資料館あるいは二条城とコラボし、展示来館者を増やすという方法しかないと思う。ここは京都御所に近く、立地はいいが、展示室も展示しにくくジレンマがあると思うが、色んなところとコラボして打って出ていくのも、一つの方法だと思う。京都市が明治150年事業をやるにしても、歴史資料館を抜きにして語れないと思う。考古資料館や二条城では果たせない役割があるので、そういう京都市の外郭団体とうまく連携すれば、もっと活力がでるのではないか。

それから、歴史資料館のベーシックな活動はやはり外せないと思う。古文書の調査や講座、地域の文化・歴史を取り上げた展示やら、地味なものだが、やめたら叩かれるし、やったらやっただで何でこんな暗いもん…と言われるし。皆さんが折角いいことをやっているのに、来館者数のグラフは右肩下がり。ぜひ、歴史資料館が打って出ることをお勧めしたい。

[評議委員] こちらで企画して、市の関係施設と連携して展示をする、そういうことができたらいと思う。

[評議委員] 二条城はあれだけ部屋があるから、その一角を貸してもらい歴史資料館をアピールしたらいい。歴史資料館の皆さんが、折角専門的な知識をもってやっているのに、すごくもったいない。

[市・資料館] 明治150年事業は、総合企画局が中心になり、歴史資料館が協力をしている。当館の職員が講師などで協力しているし、二条城の整備事業にも協力している。

[評議委員] 協力する条件として、監修 歴史資料館というようなクレジットをつけてもらうとかすればいい。

[市・資料館] 今後、御意見を参考に工夫していきたい。

[評議委員] 平成29年度の予算が400万円ほど余っているようにみえるが、これは使えなかったのか。

[市・資料館] これは国庫補助を見込んで予算を計上したが、国庫補助が想定より減額になったので、執行できなかったものです。

[評議委員] ホームページでの発信ということも、もっと心がけていただきたい。

[市・資料館] 今後、歴史資料館がどうかたちであるべきなのか、しっかりと考える必要があるということについて、御意見をいただきました。いますぐにできることと、大きな計画の中で進めていくことがあるが、今日の評議委員会の御意見をふまえて、しっかりと考えていきたい。

(9) 閉会あいさつ

本日は、長い時間にわたり、貴重なご意見・ご提言をいただき、ありがとうございました。歴史資料館は、市政史の編さん事業が終わって、文化市民局の移管し、考古資料館と歴史資料館の両館で連携している部分もある。どちらも施設が古く、収蔵スペースも足りなくなっている。歴史資料館というものを市民の方にしっかりと伝えていき、大きいものを作れることを最大目標にしながら頑張っていきたい。引き続き皆様からのご支援とご協力をお願いしたい。本日はどうもありがとうございました。